

# 令和7年度 特定非営利活動法人川西市手をつなぐ育成会

(地域生活支援かわにしホームたきやま及び久代ハウス)

## 地域連携推進会議 会議録

日 時	令和7年8月2日（土）10時～12時
会 場	特定非営利活動法人川西市手をつなぐ育成会 地域生活支援かわにし 多目的室
出席者	地域連携推進員 (敬称略) (ご 利 用 者) Aさん、Bさん (ご利用者家族様) 常岡 多加子、鈴木 千代子 (地域の関係者様) 真部 芳子 (福祉に知見のある方) 前川 幸夫 (市町村担当者様等) 渡邊 真司
	理事・職員 (理 事 長) 白川 清彦 (事業統括管理者) 松澤 知明 (ホームたきやまサービス管理責任者) 村上 光恵 (久代ハウス管理者) 延原 優司 (職 員) 小林 大輔
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>開会のあいさつ</li> <li>地域連携推進員ご紹介、職員紹介</li> <li>地域生活支援かわにしホームたきやま及び久代ハウスの紹介</li> <li>ご利用者様の声</li> <li>意見交換</li> <li>ホームたきやま見学</li> <li>閉会のあいさつ</li> <li>久代ハウス見学（一部委員）</li> </ol>
会議の成果（要約）	<ul style="list-style-type: none"> <li>当法人が運営するグループホームを紹介し、障がいを持つご利用者様がホームでどのように暮らし、職員がどのように支援しているのかをお伝えした。また、実際のご利用者様の声を委員の皆さんにお聞きいただくことで、ホームの雰囲気や職員との関係性などを感じていただいた。</li> <li>委員の皆様からは、「利用者と地域との関係づくりのためにできること」というテーマに合わせて様々なご意見やご提案をいただくことができた。地域のイベントや清掃活動に参加したり、ボランティアや実習を受け入れたりすることで、障がいを持つ人が地域で安心して暮らすことができる学んだ</li> <li>グループホームを見学いただき、ご利用者様が実際に過ごす様子をご覧いただいた。</li> </ul>

司会	<p>皆様、定刻となりました。お集まりいただきましてありがとうございます。暑い中本当にありがとうございます。まもなく、特定非営利活動法人川西市手をつなぐ育成会のホームページやまと久代ハウスの地域連携推進会議を始めさせていただきます。会議の前に何点かお伝えしたいことがあります。まず、お手元の資料の確認をお願いいたします。事前に送付させていただいた、「特定非営利活動法人川西市手をつなぐ育成会が運営するグループホーム」という資料と本日のテーマ「利用者と地域との関係づくりのためにできること」という、これが1枚ものになっておりますA3の用紙があります。そして今日ご出席いただきました前川様から、A4の用紙で資料を作っていただきましたので、こちらも1枚あるかと思います。A3の用紙とA4の用紙1枚ずつお手元にございますでしょうか？それでは、また何点か申し上げます。本会議の会議中、ご利用者様の個人情報にも触れることがあるかと存じますけれども、個人情報保護の観点から、情報の取り扱いに十分ご配慮をお願いいたします。本会議の内容は、議事録を公開することが求められており、録音用の機器を置かせていただくことをご了解ください。現在当法人のホームページを準備している所で、そのホームページにて、議事録の方は公開させていただく予定になっておりますので、よろしくお願ひします。会議の風景も後ろ奥の方でビデオを撮らせていただいておりますが、こちらはあくまで内部の職員研修用として利用させていただきますので、ビデオの映像は公開することはありません。もし不都合がある場合はおっしゃっていただけますでしょうか。よろしくお願ひします。最後に、本会議は今回が今年初めての会議となり、至らぬ点が多々あろうかと存じますが、ご容赦ください。では、特定非営利活動法人川西市手をつなぐ育成会の令和7年度地域連携推進会議の開会に当たりまして、当法人の理事長である白川よりご挨拶させていただきます。</p>
白川	<p>おはようございます。お忙しい中、またこの暑い中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。滝山地域民生委員の真部様、伊丹深愛館の前川様、社協の渡邊様も、ご多忙にも関わらずご出席賜りまして、誠にありがとうございます。我々はこのグループホームを地域に設立して以来、地域の皆様方にはご理解とご支援を賜り、現在運営しております。皆様には利用者の親といたしましても感謝申し上げる次第でございます。今日の会議を持ちまして、皆様に様々なご意見とご支援を賜われれば幸いです。また今日、夕方4時からこの地域で職員が夏祭りを開催する予定です。お時間のある方、地域の方々もご参加いただけたら嬉しいです。地域の皆様には今後ともご支援ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひします。ご挨拶とさせていただきます。</p>
司会	<p>白川理事長ありがとうございました。それでは、本日お集まりいただきました地域連携推進会議の委員の皆様をご紹介させていただきます。私の方から所属とお名前をご紹介いたしますので、簡単にご挨拶いただけますでしょうか。まず、滝山地区の民生委員を務めていらっしゃいまして、当法人の第三者委員も務めていただいている、真部芳子様、お願ひします。</p>

真部	真部です。よろしくお願ひします。ここは最初に立ち上げ当初から滝山の自治会と交流がありまして、一番最初に建った棟でこの空き地を利用して盆踊りとか、鈴木さんともお久しぶりでご挨拶したんですけれど、一緒に皆さんと地域の方も声をかけさせてもらって盆踊りとか楽しんだことを昔のことを思い出したりしております。この度はこういうことで皆さんとお目にかかるて、そこにお二人いらっしゃる方たまたまなんですけど、わたし小戸作業所のボランティアで絵本を読み聞かせや手遊びを毎月1回伺っているんです。Bさんとも顔見知りで毎月向こうにも声がかかってもう10年以上になります。最近ではすごくわたし達のことをよく分かってくださって、メンバー3人で行つてゐんですけども、一人ちょっと用事で来なかつた時は「どうして一人来ないんだ?」と追求されたりします。絵本とか大型絵本とか読んで、輪投げをこの頃は皆さん喜んでくださって、一人一人頑張られるんです。達成感があるのかなと思ってね。そんな感じで今日は参加させていただきました。よろしくお願ひします。
司会	続きまして、伊丹深愛館の前川幸夫様です。よろしくお願ひします。
前川	前川です。お願ひします。川西の小戸の作業所ができた頃にちょこちょこ行かせてもらって、そんなこんなで村上さんとは、お久しぶりです。職場が前に一緒というのがあって、まあそんなこんなで声かけさせていただいてお世話になる次第です。たいしてお役には立てないですが、よろしくお願ひします。
司会	ありがとうございます。では、社会福祉法人川西社会福祉協議会の川西市障がい者基幹相談支援センターのセンター長、渡邊真司様でございます。
渡邊	基幹センターの渡邊と申します。よろしくお願ひします。この地域連携会議は川西市内ではおそらく初めてだと思います。僕も興味深くて、声をかけていただいて参加できることを光栄に思います。本日はよろしくお願ひします。
司会	続きまして、当法人のグループホーム、ホームたきやまのご利用者様、A様です。
A	Aさん、よろしく、よろしくお願ひします。
司会	ありがとうございます。では、ホームたきやまの、ご利用者の保護者様、常岡多加子様でございます。
常岡	ホームたきやまがここにできた時から入つてますので、もう20年になります。村上さんを始め皆さんの優しさ、利用者を大事にしてくださる、思いに沿つてくださるところはすごくよくて、いろいろありますけども、ここずっと過ごせたらいいなと思っております。よろしくお願ひします。

司会	ありがとうございます。グループホーム久代ハウスのご利用者様、Bでございます。
B	Bです。
司会	ありがとうございます。続きまして、久代ハウスのご利用者の保護者様、鈴木千代子様です。お願ひします。
鈴木	どうも遅れまして申し訳ありません。いつもギリギリですが、久代ハウスには、前は久代ホームというのがあったんですが、開所当初からお世話になって、もう10年近くになります。何しろ大変な子どもで皆さんご存じな方はご存じでしょうけど、色々な問題山積の子で、育成会のグループホームで徐々に慣れていくて温かく見守っていただき、何とか1人でやっていけるようになりました。渡邊さんから訪問看護とかいろいろ、散歩ガイド毎日行くようになりました。この生活が少しばかり変わったのかなと思ったり、自分の子どもが一番心配で、私も今のところは何とか動けるんですけど、できるだけ久代ハウスで穏やかな日々が過ごしてくれたらいいなと願っております。とりとめのない話で申し訳ありません。
司会	ありがとうございます。以降は恐れ入りますが敬称を略して、お呼びさせていただきますのでご了承ください。本日は職員の方も会議に参加に参加させていただき、ご意見を伺えればと考えておりますので、ちょっと順番に自己紹介させていただきます。延原さんの方からお願ひします。
延原	はい、久代ハウス管理者の延原と申します。お世話になっております。はい。久代ハウス開設当初に管理者として務めさせていただいておりまして、本日もどうぞよろしくお願ひいたします。
村上	はじめましての方もいらっしゃいますが、改めまして、ホームたきやまのサービス管理責任者をさせていただいております村上と申します。本日はお集まりいただきまして誠にありがとうございます。特にAさん、Bさん、どうもありがとうございます。こうやってご利用者さんのご意見を聞けるとか、地域の方がいろんな様々な味方をして頂けることが本当にこのありがたい機会を生かしてまいりたいと思っております。で、本当に20年前の話とか、盆踊りした事とか、もう本当昨日のことと思い出すような、この建物もなくて、一戸建てもなくて、森だったり田んぼだったりしたのどかな風景も、もう何か目を閉じれば思い出すぐらいな感じなんですかけれども、それはもう本当にだいぶ前の話っていうことで20年前は20年前の課題があり、ホームとして、こここの地域でどういう風に役立てていけるのかとか、ご利用者さんの暮らしをどう支えるかっていうことが毎年課題が変わっていって、きっと1年先、3年先、5年先また変わってくるっていうことを覚悟しながら、日々の変化に一生懸命ついてまいりっております。本当に日々尽力

	するばかりで目の前のことと精一杯で、いろんなことが見落としていることが多いとおもいますので、今日それに気づかせていただこうと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
松澤	おはようございます。暑い中皆さんお越しいただきましてありがとうございます。渡邊さんからお話をありました地域連携推進会議という制度的に今年度から福祉関係の事業所におきましては、必須ということになり、それを受けまして今回初めて私どもも初めて開催させていただいております。そういう形で本当に前例もない内容なので、これが本当に一番ベストなのかどうかっていうのはまだまだ分かりませんけれど、私たちが今考える中でベストという風に信じてさせていただいております。ですから、皆様方、他の連携推進会議とか行かれまして何か良い提案とかございましたら、また私どもの方へもご提案いただけたら幸いに感じておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。
司会	すみません。職員の小林と申します。遅ればせながらお願ひします。本日司会の方をさせて頂きますのでお願ひします。会議の最中、グループホームについての質問などがありましたら、サービス管理責任者とか管理者とか職員がお答えいたしますのでお願ひ致します。それでは、会議の方、本格的に始めて参ります。全体の構成として、まずはグループホームの紹介を簡単にさせていただきます。順番にさせていただきまして、その後ご利用者の皆様からということでお二人からの生の声を皆さんに聞いていただければと思います。その後、意見交換がありました後、グループホームの見学という形で進めたいと思っておりますのでお願ひします。こちらからの一方的な説明よりも、皆様との意見交換にできるだけ時間を使いたいと思っておりますのでお願ひします。今回の会議のテーマは、「利用者と地域との関係作りのためにできること」とさせていただいております。そのためにまずは私たちのグループホームについて知っていただく必要があるかと思いますので、簡単にご紹介の方させていただきます。ではまずホームたきやまの方からご紹介させていただきます。村上さんお願ひします。
村上	はい。では僭越ながら改めてよろしくお願ひいたします。まず、ホームたきやま1、2、3となります。向かいの建物1階が1、2階が2、そしてこの建物の2階が3となっております。定員は、それぞれ5名です。たきやま1のみ男性のご利用者さんです。こちら24時間365日の日中支援型というグループホームとなっております。1、2、3ではショートステイ、短期入所のサービスも行っております。各1名ずつ空きお部屋を作っております、いつでも、緊急時でも受け入れるという体制を取っております。職員は生活支援員、日帰りでご利用者さんと関わっていただく支援とそれから世話人、入浴、食事、排泄の支援、口腔ケアなど夜間支援に従事する職員の2名で回しております。はい。こちら玄関のところで、表示にありますようにAEDを管理しておりますので、地域貢献という意味で設置しておりますけれども、もちろんこの中に何か緊急事態が起こった時も活用できるということで、職員全員がAEDを使えるように日々訓練しております。そしてチラッと見えるこの坂、ちょっと写真では分かりにくいと思うんですけど

	<p>も、皆さん上がったことはあると思うし、下ったことはあると思うし、非常にきつい坂です。勾配がきつい坂です。ここを頑張って登り降りしてAさんも、毎日通ってらっしゃいます。偉いです。素晴らしいです。こちら玄関です。こちら向かいの1、2の建物の写真になっております。玄関入って、外観なんかすごくおしゃれで綺麗ですね。はい、入りました。玄関のところに本当にいたってシンプルな感じで、で、テレビを見てリラックスしているご利用者さんの姿が見えます。一応グループホームっていうのはお家ですので、家に帰ったら、何時から何時までにこれをしなきゃいけない。何時から何時までにこれを終わらせないと行けないっていうようなそういうルーティンはありません。皆さんが好きなことをして、お風呂に入ってご飯を食べて過ごしております。このご飯が最大の楽しみで、これはある日の夕食です。これは炊き込みご飯だったり、メインのおかずがあったり、味噌汁、副菜、ちょっと果物も付いてますね。はい、美味しく召し上がってらっしゃいます。食事中はワイワイ賑やかというよりも本当に食事に集中してっていう感じで、これを食べ終わるまで次のことはしゃべりません。本当に集中しております。こちらは女性の2階に上がりました。お食事も終わってそれだけで好きなことをして遊んでいらっしゃいます。余暇活動の支援っていうことであれば、何がこの方が好きなのかなとか、何が遊びたいことなのかなということを事前に準備して用意する場合もありますし、毎日同じことをすることで安心してる方もいらっしゃるのでもういった遊びを提供しています。女性のお部屋にはあれば、多分竹内涼真という芸能人のポスターが貼ってるんですけども、その横にはsnowmanのポスターだったか、何かちょっとやっぱり女性の部屋と男性の部屋ではまた違う感じで雰囲気が楽しめるかなと思います。いつでも気軽に遊びに行ってもいいですか？（Aさんに）</p>
A	いいです。
村上	ありがとうございます。ホームたきやまは平成17年にできた川西市初めてのグループホームということで、私も前職からわざわざ見学に来たぐらい珍しいものであったり、本当にどういう風な位置付けでグループホームがこれから前進していくのかっていうのは、いわゆる入所施設に変わる地域の暮らしを支えるベースとなる住処として、どういう風に役立てていくのかなというような模索中の時代の頃に建ったと記憶しております。その頃にはもう親御さんが亡き後、親亡き後っていうことを目指してたという風には聞いておりますので、その時から志高くグループホームの位置付けを決めていったと思われます。私どもはもうそれを受け、利用者さんが地域で、この川西市で安心して暮らしていくっていう風な環境づくり、それを目標としていくことが大事だと、日々邁進しております。以上です。ありがとうございます。
司会	ホームたきやまを紹介いたしましたので、皆様から何か質問がありましたら、お伺いいたします。
渡邊	ほんと村上さんおっしゃってたようにグループホームって家でないといけないんですね。昔の福祉の流れからすると、職員の動きに合わせて利用者さんに生活してもらうつ

	ていうパターンでいけた。何かその辺で今工夫をされてる事ってありますか？
村上	おっしゃる通り、利用者が主体となるホームでありたいと思っていましたので、職員のやりやすさとか要領に合わせて生活の枠組みは一切使ってなくて、せいぜい夕食を提供する時間っていうのが、6時か6時半かなっていう。でもそれでも幅を持たせて、その間に召し上がって頂けたら、眠りもスムーズに眠れるし、お風呂にも入れるし、その後ゆっくり休んでいただく、その就寝さえスムーズにいけば、次の朝も皆さん気持ちよく起きて出勤できるという風な生活スタイルだけは守ろうとは努力はしますけれども、基本的にいつ寝てもいいし、いつ召し上がってもいいし、いつお風呂に入ってもいいよっていうスタンスで、遊びも何を遊んでもいいよ、テレビも何見てもいいよ。でもチャンネル権争いの時はちょっと仲介させてねっていうのであったり、お部屋で過ごすのも自由ですし、時折お部屋にノックして入させていただいて、ご様子伺わせていただくっていうのも私たちの仕事ということを理解していただいて、程よく距離を取りながら、皆さんの生活を尊重しているつもりです。まだまだ及ばないところがあるので、また色々アドバイス頂けたらと思っています。
渡邊	ありがとうございます。
真部	職員は何人で作られてるんですか？1人ですか？
村上	はい、1人で夕食を作ります。今は湯せんできあがったものを作る、盛り付けるというスタイルですので、お味噌汁とご飯はこちらで炊く。先ほどの写真で。
真部	ここで料理はされないんですか？実際には。
村上	お味噌汁と炊き込みご飯とフルーツをカットするぐらいで、後の副菜2つ、メイン1つは、できあがったものが届きます。それがね、ちょっと物足りないというか、やっぱり家庭の味、家での暮らしをそのままでしたら、例えば揚げ物を揚げたてを召し上がっていただくとか、焼き立てのものを召し上がってもらうことも今後は必要だったり、時には外食に行ったり、お弁当を取って、宅配の楽しみがあったり、そういうこともどんどん取り入れて、お食事は本当に最大の楽しみですので、色々バラエティに富んだ工夫をしてまいりたいと思います。
前川	ちょっと教えていただきたいんですけど、利用者の日曜日の過ごし方、どんな感じですか？
村上	まさに今日、休日過ごしていただいているんですけども、本当にこちらも自由で、みんなそれぞれ趣味も違えば好みも違うし、休日の過ごし方も全然違うんですよね。ある人はおうちに帰ってゆっくりしたいっていうことで、帰宅、帰省する方もいます。この暑い中ですが、外出したい、遠方にでかけたい、電車に乗りたい、美味しいもの食べに行き

	<p>たいという方はガイドヘルパーさんをご利用して、外出する方もおられます。でも暑さでどこも行きたくないし、1週間頑張って仕事したから、土日はゆっくりしたいわといふ方はホームでゆっくりお休みいただくということで、ごろごろしたりする人もいるし、ホームの中で自分の趣味を楽しむ方もいますし、1日DVD、同じDVDをずっと見続ける方もおられますし、楽しみ方はそれなんですかけれども、こちらが何しましょう、今日は何々する日ですっていうような休日っていうのはあまりないです。ただ余暇を持て余す苦手な方に対しては、今日はパズルをしましょうとか、少し提案させていただく支援をさせていただいてます。</p>
前川	<p>村上さんは前に通勤寮っていう施設で一緒にさせて頂いて、村上さんは当然知っているということを前提に質問してるという、意地の汚い（笑）、社会との関係をどうしていくかというテーマというところで考えれば、休日にそれが個人で外へ出る。昔と今と違うのは、ヘルパーさんがおってそこでかなりの部分が違ってくるんやけれども、利用者さんが1人で外へ行く。例えば交通のマナーであるとか、信号機の理解とか、それから電車を使うというのやったなら、通勤寮の職員の失敗やねんけど…本人と話しつつJRでどこそこ行って来たんです。切符を買ってないということが後で判明します。それはまずい。社会の中で、川西のバスは阪急が走ってるのかね。阪急ですね。伊丹やったんで、伊丹は市バスが走ってるんで、市バスのこととか、そういうのを生活、社会生活をする上での基礎知識。健常者の場合はそれはやっぱり知らず知らず身に付いてくるんやけれども、彼らには1から教えるというか、0からっていうか、そういう場を作つとったんです。それ休日やから、それが自由にしている、それはそれやねんけれども、社会との関わりをするところでの基礎知識、そこへの配慮っていうのもあってええん違うかなという、多分村上さんやったら分かっるとないうことを前提で…</p>
村上	<p>いわゆる勉強会というか、事前に予備知識をどこまで利用者さんに提供できるかっていうことなんですかけれども、利用者さんそれがおられて、現地で学ぶスタイルが合つてた方がいたり、とりあえず外出をしてヘルパーさんと寄り添いながら切符の買い方を知るっていう方もおられますし、事前にこちらから今日行くところはこういうところで、こういうところでは静かにしないといけないねとか、こう、これを持って行つたらいいねっていう風にアプローチする方もおられますし、前川さんよくご存じのように、事後というか、何かやっぱり事前に防ぎたい、転ばぬ先の杖をやっぱり支援者としては望む場面であっても、どうしてもそこが及ばない。先ほどの例があったように、無賃乗車してたんや実はっていうことが後で分かるっていうパターンも、この知的障害の方に対する支援の醍醐味というか、だと感じてるんですけども、それこそ1人で出かけられる方、外出が可能な方なんかは行った先まで目が届かない。で、帰つて来たら、クレジットカード作つたとか、多額の買い物を後払い契約してきたとか、それがわかつた時に、こちらが詳細を知る後手後手になつてしまつてあっても、後で詳細がわかつてフォローができる、ご本人さんが反省して、次これをしないようにしようとか、次に同じようなことがあった時に、前と一緒にだから今度はやめておこうっていうような学びの機会っていうのが、いわゆる勉強会以上に、身をもつて社会経験を通して感じて</p>

	おられる実態もございますので、勉強会をしたとしても、自分とはまた別の話として聞く方もおられますし、なかなか難しいですけど、本当に大事なことです。社会生活を送るという意味では、こここのグループホームで完結してはいけないと思ってますので、それも承知の上で今後も支援して参りたいと思います。
司会	続いて、久代ハウスの方のご紹介をお願いいたします。
延原	はい。久代ハウスの方も座ってご紹介させていただきます。久代ハウス共同生活援助、障害者のグループホームになっておりまして、2階が男性フロアになっております。1階の方に女性フロアがあり、お住みになってます。16時から9時までの利用となっておりまして、介護サービス包括型の事業所になっておりまして、主に夜間、あと休日において、入浴、排泄、食事の介助、生活の相談といったサポートを提供させて頂いております。外観は、こちらの建物になっておりまして、所在地は久代の2丁目になっております。ご近所には川西南中学校、あと正愛病院の方がご近所さんになります。ショートステイ、短期入所「空床型」とありますのは、久代ハウスはご利用者さんの居室、1階に5部屋、2階に5部屋という形で計10部屋あるんですけども、お部屋空きましたよといった状態になりましたら、次の入居者さんが決まるまでは、その部屋はショートステイ、短期入所の部屋としても使いますよという形の、空床型のサービスも提供させて頂いてるんですけども、今現在、1階2階と居室の方は、入居者さんで埋まっている状態になってますので、今はショートステイとしての利用は行ってないという形になっております。職員の方は、生活支援員さんと、世話人さん、こちらはたきやまと同じような形でサポートの方をさせて頂いております。こちら実際の建物の写真になりまして、玄関です。右の方が玄関入っていただいたところ、1階が女性フロア、2階手前の階段で、上がっていただいた男性フロアとなっております。こちらがちょっと廊下の方になります。こちら2階の写真になるんですけど、1階と2階ほぼ同じような作りとなっています。こちらリビングですね。手前の方には台所がありまして、台所とリビングという形になっております。こちらが1階の女性フロアのリビングの様子ですね。女性の方は、結構工作とかが好きな方が多くて、リビングに集まって、折り紙であるとか、塗り絵であるとか、あとビーズを使って工作されたりとかです。あとリビングのテレビでアニメとか映画を見て、皆さんで盛り上がりながらお過ごしという方が多いですね。
B	歌！
延原	はい、歌すみません。ありがとうございます。男性利用者さんのフロアのリビングです。リビングの方で自由に、テレビであったりとか音楽、カラオケも楽しんでいただきたり、ご自身の部屋で、スポーツ観戦の方に盛り上がられたりとか、ご自分のテレビゲームをプレイして、お過ごしという方も多いです。お食事に関してはホームたきやまと同様に、副菜の方を頼みまして、ご飯と味噌汁こちらで提供するという形をさせて頂いておりまして、お写真にありますのは、左の方は、ある利用者さんのお誕生日をお迎えいただいた時の食後にちょっと、ケーキで、お祝いをしていただいて、その後も皆で食

	べていただいてるという写真になっております。右が、去年のクリスマスの写真ですね。すみません、Bさんこの時はまだ入居されてない状態になるんですけども、また楽しみにしといてください。
B	はい。
延原	食事もいつもと違うチキンを注文させて頂いて、その後ケーキを楽しんでいただいているという形で、いつもと違う日にはこういった、行事もさせて頂いておりますね。施設の写真の方は以上になりますけども、この後、お時間のある方は実際に久代ハウスの方に訪問していただくという機会も設けておりますので、是非是非実際に見ていただいてもいいのかなと思っております。
B	いいよ！いいよ！
司会	じゃあ、久代ハウスの方をご覧いただきて、何かこちらにご意見とかご質問とかありましたらお尋ねいたします。何かございますか？
渡邊	実際にこの地域との繋がりっていうのは今感じることはありますか？
延原	正直申し上げると、久代ハウスのご利用者さんも確かにその休日とかに、移動支援を使って、介護ヘルパーさんとお出かけとか、映画行ったり、プール行ったりっていうことをされてるんですけど、実際に久代ハウスとして地域の方と交流という部分では非常にちょっと経験が乏しい状態という事になっておりまして、やはり施設として地域の皆様とどのように繋がりを持っていけるのかなっていうところは今後の課題でもありますし、皆さんとのご意見っていうのも伺っていただくという形になると思います。
渡邊	こういう仕事をしててやっぱグループホーム建てたいとかいう相談も受けるんですけど、やっぱり地域の反対っていうんですか？なかなか地域が許してくれない地域もあるっていうのが思うんです。久代、この辺はどうですか？
延原	まあ、当初はちょっと、はい。
渡邊	根回しして？
延原	大きな反対は（なかった）
渡邊	なかなかね、これが地域連携推進会議が必要とされる理由の一つなんでしょうね。
鈴木	ご近所へのご挨拶まわってはいて、そんなにあれはなかったんですけど、でも何か建物に柵を作るとか、何かちょっとそういう風なやっぱり、まだわからないっていうところ

	が。今はそんなにね。
渡邊	ありがとうございました。
司会	よろしいでしょうか。ではですね、概要の方確認いただきましたので、それではお待たせしました。実際の利用者様の、お声を伺いたいと思いますので、まず最初にホームたきやまのAさんからご意見を伺います。よろしいでしょうか？
A	はい。
司会	Aさん、ホームたきやまのどんなところが好きですか？
A	パズル、せんたくたたみ、塗り絵、わなげ。ボーリング！
司会	へえ。ボーリングできるんですか？ご飯はどうですか？ご飯おいしいですか？
A	ご飯食べる、ご飯おいしいです。
司会	ありがとうございます。じゃあ、Aさん、逆にホームたきやまのちょっとここが嫌とか、ここ直してとかいうところはありますか？
A	あります。
司会	どんなところでしょうか？
A	あります。
司会	あの、嫌なとこありますか？
A	あります。
村上	それがどこが説明できるかな？何ですか？
A	あります。
村上	今言えないけどあります。みんなには言えないけど、それはありますよね。
司会	じゃあ、また村上さんとかにね、何か嫌なことがあったら何か質問してくださいね。他の職員さんでも結構ですのでね、また何かあったら相談してください。お願いします。

鈴木	何か聞かれることありますか？利用者さんから苦情とか。
村上	苦情、そうですね、言葉でコミュニケーション取れる方は結構素直に、誰々さん、世話人の名前を挙げて、誰々さんこんな言ってきたとか、こんなしてただとか、ま、掃除してなかつたでとか、そんなこと。厳しいご指摘は受けて、その都度真摯に受け止めさせて頂いてます。ただ、本当100%のご利用者の言葉を鵜呑みにするにはちょっと怖い部分もございますので、よくその検証を重ねた上であったりとか、その方の特性、どんなことを発信して、皆さんの顔色伺ってのかという部分もあって、言葉が出せる方だけの発信じゃなく、言葉がない方からも言葉じゃない形で発信がございますので、それを受け止める機会だとか、それを察知する能力をもっと高められたらなとは思いますけれども、まだまだ、お恥ずかしいですが。だからAさんの思ひっていうのも、日々の生活の中でまた色々聞き取りたいと思います。
A	思います！
鈴木	ありがとうございます。あの、一応やっぱり5人、団体ですから、そのご利用者間の何か色々転轢とか、そんなのもあるんじゃないかなと。
村上	そうですね。配慮して回りたいところですね。でも皆が仲良くする必要はないと。
鈴木	そうですよね。
村上	喧嘩にならない程度で、ホームでの生活を支えていきたいと思ってます。ただ、付き合いが長いと、どんなことでも、あの人はこういう人なんやつていう風に皆さんの方が包容力があって、柔軟性があるので、そういう部分では私達職員よりもご利用者さん同士の理解っていうのが深まっているかなという感じがしますね。
鈴木	余計なことすみません。大丈夫です。
司会	では、お待たせしました。久代ハウスのBさんにもご意見を伺います。Bさん、久代ハウスのどんなところが好きですか？
B	ドキドキする。 ご飯！ご飯おいしい。
延原	ご飯。朝ご飯ですか？
B	2杯。
延原	2杯ですね。食べてますよね。食事は楽しみですか？お味は？

B	おいしい。
司会	ありがとうございます。Bさんのお部屋もね、すごく個性的なお部屋でね、好きなビデオゲームがあつたりね、すごいね、入つたらちょっと僕も居ついちゃいたくなりそうな部屋なんですけれども。
延原	Bさんお部屋でどんなことして過ごされますか？どんなゲームですか？
B	三国志！
司会	へえ。かっこいい。
延原	時代劇好きですね。あれ何て言いましたっけ。
司会	ありがとうございます。じゃあ、Bさん最後に質問です。逆にこういう、久代ハウスで嫌なとことかないですか？
司会	大丈夫！
鈴木	嫌な友達いない？
B	大丈夫！ ハウス、大好き！
司会	よかったです。 ありがとうございました。では、委員の皆さんからBさんに何かお聞きになりたいことがあつたら。
渡邊	嫌なことあつたら誰に言うてる？
B	(延原さんを指さして) にーちゃん
渡邊	オッケー。了解です。
司会	ありがとうございます。じゃあ、何か嫌な事があつたり、何かこんな事が楽しかったとかあつたら、是非また職員さんにも教えてください。お願いします。ありがとうございました。ではお2人ですね、グループホームの生の声を皆さんに直接お届けするとしても大事な役割を担つて頂きましたので、お2人はちょっとこれを持って退出されますの

	で、拍手でお送りください。Bさん、Aさんありがとうございました。Aさん。お茶持 って帰ってくださいね。
村上	じゃあ行きますよ、じゃあ、ホームに帰ります。
A	ありがとう！
(ご利用者様 退出)	
司会	ありがとうございました。それでは、ご利用者様からのお声を伺ったところで、皆様からも、率直なご意見を伺いたいと思います。先程のご利用者様からのお声についての感想でも結構ですし、職員への質問でも結構です。そして、本会議のテーマについて何かお考えがありましたら、お話頂ければと思います。私から何かこういうテーマでって申し上げても、それはもう釈迦に説法な話になりますので、皆様からざくばらんに、形式とか、順番とかは設けておりませんので、お話頂けますでしょうか？前川様の方がせっかく資料の方ご用意頂きましたので、ちょっとそちらの資料も合わせて、お話頂ければ、よろしいでしょうか？
前川	はい。この紙を、持ってこさせてもらったんですけども、地域との関係をどうするねんっていう、そのテーマについてはもう、具体にどうするんやっていう、その問題やと思いますんで、だだっと羅列したんですけども、1つ目にはその地域の自治会に加入、いや、もう既にしているかどうかを僕知りませんで、ただ、ちょっとこう提案というかだけなんで、もし、もう既にされてはるというのやったら、それで了解しといてください。で、まずその施設としてその地域の自治会に加入する。これはそのどういうのかな、その施設の地域との関係をどうするっていうことについて、やっぱり一番始めにしとかないかん手続きかなという風に思います。こここの地域にもゴミを、こちらは事業所やから事業ゴミで出してはるんかな？
村上	そうですね。
前川	ほしたらその、生活してはる人のゴミも事業ゴミ？
村上	まとめて事業ゴミとして出してはるっていう。はいはい。
前川	で、そこらでちょっとこう条件が違ってくるんやけれども、もし生活ゴミっていうことで市のそのゴミ置き場であるとか、そしたら掃除当番が回ってると思うので、そういう掃除当番を施設として、1回でもやればその地域の人からすればちょっとだけ掃除当番が助かるというね。そういうことも含めてやねんけど。ですから、こちらでよく行かれる商店街とかっていうのはあるんですかね？

	商店街って無いですね。
前川	え？
村上	商店街って無いですね。
前川	無い、無い？川西の駅のところに商業ビルとかはあるんですよね？
村上・鈴木	キセラ、オアシスタウン、関スパとかね。
前川	そういう所があったら、そういう所にも、利用者さんが、休みの日とかに行ってうんぬんっていうことでやつたら、その責任者の人に、ちょっとご挨拶をとかね。そういうことは思います。で、次の地域を対象に地域の施設の祭りっていう、今日こちらではしると思うんですけど。で、それの中に、施設紹介のコーナーを作る。写真とかがあつたら分かりやすいんやけど、利用者さんの顔が映るとか、職員の顔が映るっていうのはそれはちょっとまずいと思うので、そういう場合は、後ろ姿とかっていう、そういう配慮はするということですね。だから、その地域のお祭りとかっていうのはこちらではありますかね？
真部	ありますね。ここだったら北小学校で、前は盆踊りをやってたんですがね、最近は盆踊り踊り手が少なくなつて、だけど子供たちが割と小さい子供さんがいらっしゃるので、納涼祭という形で去年から変えて盆踊りはしないんだけど、ちょっとお店が出たり、ヨーヨー釣りがあつたり、それがもう終わったんですけどね、この間の土曜日、毎年7月の1番最後の土曜日が、地域のお祭りなんですね。で、中にはその、スポーツクラブとかがだけかね、何かちょっとフランクフルトを売ったりとかね、それは地域の会議に出て出店したいという希望があれば、出せるし、ここもそういうのでやりたいというのがあればね、そういうことは可能ですかね。だけど、もう子供さん見て、んで、実際他の業者さんも何人か、たこ焼きを卖ったりね、その方はもうプロの方で、よそから来られてるんですけどね、福祉関係で言うと、地域の方がヨーヨー釣りをやるとかね、NPO法人での絹延にあるところが、去年と今年から、ヨーヨー釣りを出されたりね。で、その利用者さんが作った何かカードみたいなものを、その所で出されて、それを、カードを作るという作業ね。そこは精神障害の方の、グループ、居場所作りの、「コンパス」っていうんですけどね。そこが関わってはる所はちょっとお店を出されましたね。それで、もうたくさん子供たちが来て、ちょっと舞台作つてそこで、オープニングは川西中学校の吹奏楽部が、去年はそうだったんですけど、今年は違ったんですけどね、そう出てくれる方を地域の方がちょっと頼んだりね。で、ちょっと盆踊り的に、舞台でちょっと踊るというか、楽器演奏がちょっとあつたりね。で、それで、それは時間がこう、19時ぐらいに設定されてて、それまではもう勝手に皆がぞろぞろとこう浴衣を着て、小さい子供さんがね、お母さん達と一緒に見えてるっていう感じで。

	で、その時は地域の方が、ここ自転車はここに置くとか、出口でちゃんとチェックしてね。そういうお祭りの日という感じで。地域の役員が出たりして皆、前日に打ち合わせとかしたり大体17時から21時ぐらいで、終わるっていう風な感じです。だから、そんな時にここの方もご存じじゃなかったと思うけど、見に来て、また帰ってくれるっていうのは可能ですね。小学校近いでしょう？
村上	近いです。
真部	うん、だから連れだってね、来て、で、売ってるもんもそんなに高いもんじゃなくてね、皆、ま、でも人気の所はざっと行列で並んでましたけどね。私もちょっと別のそのNPOのコンパスの手伝いにちょっと入ってて、ヨーヨー釣りの所でずっと売り子してたんですけどね。もうそういうのが無かつたために去年も販売したんで、今年もね、こっちのスタッフがもう大変でね、どんどん子供さんが来はるし、ヨーヨー釣りをね、楽しんで、だからそういうお店を出したいという希望があればね、そういうのも可能だと思いますけどね。
司会	地域に目を向けたら、色々な機会が結構たくさんあって、まずは参加する所から始めて、で、発展すればですね、出店とかそういうのに入って・・・
真部	自治会に入っておられたら自治会長の方からね、そういうニュースとか、あれも連絡も回って来ると思うので。
司会	ありがとうございます。すみません、地域の貴重な情報ありがとうございます。前川さん、では続きのほうを。
前川	はい。そういうのがあったらそういう所に、施設紹介というコーナーぐらいな事でもいいので出店するっていうことですね。でから次に、週に1回地域のゴミ拾い。これをどういうんですか、その施設を起点として、散歩しあるんやったらそういう風なコース。で、所要時間、20分30分ぐらい。で、そういう所に、バス停があったらええんやけどなっていう、つまり、今はね、この頃皆、健康志向でタバコ吸わんようになったんやけど、昔、結構バス停にタバコの吸殻がね、
真部	落ちますね。
前川	そう。だからそういう所がコースにあったら、具合がええんですけど。前、通勤寮におった時に村上さんがきた時分には。
村上	環境整備でやってましたね。
前川	やつとったかい、はいはい。

真部	ここも滝山の駅まで行って帰って来るぐらいのね、距離で割と吸殻とかが落ちてる可能性とか。んで、滝山の駅近辺ではね、割と缶が落ちてたりね。ちょっと下がった時に、ゴミ捨てる場所、私達地域の分があるんだけど、そこら辺の所にはちよこちよこ落ちてますもんね。そんな頻繁じゃなくてね、2ヶ月に1回でもそういう所で皆さんとご一緒にね、あとそういう地域の人も見られて、掃除してくださってるありがたいっていう気持ちもあったり、顔見知りで挨拶もできたり。ここにね、お住まいだからということにもなる可能性もありますね。ね、今おっしゃっていただいている接点を設ける意味ではね。
司会	そうですね。
前川	はい。で、それから次に、あの、ボランティアさんの受け入れっていうもので。こちらに、ボランティアさんとかは、来とってやないかな。
村上	そうですね。
前川	あの、やはりどういうか、その施設に、その施設が求人募集をした時に応募があるんか。もうこの頃割とね、応募が減ってきてるでしょ。うちんとこもせやねん、ほんまに募集してもね、応募がないっていうね。ほんで、あの、その対策の意味も含めるんやけど、あの、ボランティアの受け入れ体制を作る。で、その受け入れ体制するのに、あの、条文は作らないかんのんで。ほんで、この頃ね、その条文作るって言うても、そのネットで見てみたらね、どこそこの社会福祉協議会とかね、ネットになんちやらって出てるでしょ。非常に助かる。で、あの、それともう1つ加えては、そのボランティア保険に何がある。それでボランティア保険にも入って、準備も作ってそういう受け入れ体制を作つて。で、その次にそんなことしたかって、その来る人ないやんかという問題があるんやけれども、それはその、この周辺の高校とか大学とかに、学生さんでボランティアサークル。それを施設のほうが育成する。あの、学生さんのボランティアサークルっていうのは、例えばその、僕の場合やったらもう55年ほど前学生やったんやけれども、学ボラっていうあの、学生ボランティアサークルっていうのがあったんで。ま、今でも探しやああるんやないかとか、それをそのちょっと興味のある目がちょっととか、そんな人はやっぱりあると思うので。で、じゃあそれをどない探すねんって言うたら、今おる職員の出身学校を探すとか。あの、んで、あの、その週1回でも週2回でも、あの、ボランティアを受け入れて、それをその施設でこういうところやねんでとか、障害、その障害者問題のこういうところが今私たちにとって課題なんやとか、そういうのを学生さんにこう話して行って、そういうその福祉の世界に興味を持って行ってもらう。で、うまいこと言つたら、うち就職せえへん?とか言うてね。ま、そういう風に繋げていくという。ま、あの、ざっくりした話なんんですけど、以上そんなことを考えました。
司会	ありがとうございます。すみません、この資料までご用意いただきありがとうございました。ちょうどボランティアとかって話も出ましたので、その地域福祉という観点から

	も渡邊さんいかがですか。
渡邊	はい、えっと、トライアルウィークとかされてます？
村上	全然してないですね。
渡邊	で、うち社協で今、社会福祉士の実習とかで1ヶ月、2ヶ月ぐらいおられる方がおるんで、もし現場の体験ができるやつたら、それも1つのボランティアかなと思いますね。じゃあぜひちょっと連携取りながらお願ひさせていただきます。
村上	こちらこそお願ひします。
渡邊	じゃ、あと先日、あの、総合センターで、地域の焼肉屋さんが参加してカレーイベントしたんですね。無料でカレーを皆さんに食べていただくという。で、そこに小さい子とか小学生ぐらいの子が来て、自分らでこう片付けしたりとか、そういう形で今ちょっと色々なところでイベント、そのカレーを使ったイベントしようかという話になってて。厨房とかもし借りれんやつたら面白いんちゃうかなと。もうほんまに誰でも入ってくれてもいいよっていう形で。で、片付けも自分らでしてよと。で、そこに障害ある方も今年はもっと色々な方が来ていただいたら、ちょっとこの施設というか育成会の理解にも繋がるんじゃないかな。ま、無料のツールなんで、上手に使っていただいて、何か新たに色々なことしようとすると、多分職員さんの負担であったりとか。うん、やっぱりね、現場の職員さん大変なんですよ。本当に、もうそれはもう僕も現場にいたんでよく分かります。いかに在るものを使おうか。便乗じゃないけど、言葉悪いけど、ここでやるっていうところがすごく大事なんじゃないかなっていうのを思います。じゃ、またちょっと声かけさせていただきます。お願ひします。
司会	はい。その地域の社会資源を、うまく活用するという事ですよね。はい。あの、保護者様の視点、立場からも何かそういう地域との関わりとかいかがですか。
鈴木	このたきやま1、2ができた頃っていうのは、結構地域との交流とかね、考えて、それこそ盆踊りとか花火大会の花火を、こつから花火が見えてたのが、もう見えないかもしれません。だからすごくこうやろうっていう流れがあったんですけど、ちょっとはつきり言って育成会に運営が変わって、ストンと何か切れたかなっていう感じはします。あのままで続いてたらね。地域の方がボランティアで盆踊りしてくださったりとか、もう本当に何か、あれ誰が主体でやってたんか。あの、当時あの、親たちもまだ若く私も含めて若かったんです。もう加齢と共にみんなしんどい。
真部	地域でね、繋がられてたもんね。カレーみんなで作って、それでみんなで食べましょうと。

鈴木	それこそその行事の中でこう出店したり、あの、多分、残骸（注：備品）たくさんあると思うんですけど、そういう風なあの、いか焼き焼いたりとか、ま、あの、地域の行事にね、まあみんな若かったけど、でも疲れたからやめようね、やめようか言うて止めたのは私が代表した頃ですので、えらそうなこと言えないんすけれども。でも思い出話すれば、やったよねっていう形で親たちもね、楽しかったんです。ま、あの、育成会が、この建物、あちらの建物、もう全額、建てたんですね。その自己資金で建てたんですが、それはもう親たちのすごいエネルギーっていうか、それとま、資金も提供もあったと思うんです。そんな感じたちでそのあが今無くなってきたのかなっていうのは、もう私も動ける、もうね、あの、体力がだんだんと薄れてきてるんですけど、何かこう、もう少し継続してたら、何かまがりなりにできたのかなとは思うんですけど、そんな感じで。ま、あの、学生サークルとかですけど、あそこには、あの、何か大学みたいなあるような感じだし、何かうまいこと、あの、学生とやっていらっしゃる施設とかその辺もよく耳にするんですけども、その辺のアプローチの仕方とかその辺も含めてちょっと改めて伺いながら、できたら、もう、親はちょっと手伝うのは無理かも分かりませんけど、若い学生なら何とかなるかもね。勝手なことを言いました。はい。
司会	私もちょうど、ホームタキやまの掃除をしてる時にですね、奥の方餅つきとか色んな備品が数多くあったのを拝見しまして、すごく頑張られてたんだなっていうことをよく思っておりました。常岡さんの方はいかがですか。
常岡	あ、はい。あの、先ほど鈴木さんも言われましたように、ざっくばらんに言いますと、育成会に、今まで、「みち」さんが、その時はあの、地域の方とね。で、真部さんに今回第三者委員にお願いした時に、真部さんのほうから、いや、またあの、地域との繋がりを持たれたいんですか？っていうご質問がありました。で、ぜひこれからそうしたいですってと言うことはここの7年間全然なかったと言う事。
真部	そうですね。途切れてしまった。
常岡	だからそういうところで、これも途絶えてしまった。利用者の立場から言うと、先ほど言われたように、休みっていうか日中支援として外に出て行く、それもなくなった。前はしてました。でもそれもなくなってしまって、今回こうして、そういう方の声がこうして聞けて、そういうのも必要だ、どうですか？って言われて言っていただいて、本当に、本当にそうだ。職員さん大変かも分からないけど、どうして今まで出来てたのが出来なくなったんやろっていうのがすごくあって、そうして皆が出て行く事が大事だし、キセラでもこういう子らがいて、今なんかやったら本当に買い物一つするんでも、昔と違って大変じゃないので、どうしてるんかなっていう思いもあって、そんなもんね、やっぱりしていって、1人でも買い物出来るようになったらいいなと思うので、今回すごく貴重な意見いただいて。
鈴木	すごく本当に今日、すごく良い勉強になりました。ボランティアを今日の準備なんかで

	も、職員の方が大変になってる。
常岡	もう親、育成会、もう50人ぐらいしかなく、親もほとんどの人がもう60、70になってて、今回本当に職員の方頑張ってくださって、夏祭りしてくださる。やっぱりそのエネルギーってどこから出てくるんだろうって。だからそういうすごく職員の方が今やりがいを感じておられるんだと思うんですね。こうしてあげたい、ああしてあげたいっていう気持ちが現実的に実行できる、その環境になりつつあるっていう事がすごく大事なんだなと思って、なんて言うかな。言っても、いや、そんな出来ないでは全然進まない。
真部	そうですね、やろうっていう。
常岡	そのやっぱり環境を整えてあげる、整えるっていうのが、育成会の、言うたら仕事じゃないかなと思って。で、そうすれば利用者さんの思いも実現されていくじゃないかな。やっぱり外に多分出て行くっていう事も、やっぱり一緒に買い物も行ってと言う風な事を全員連れて行くのが無理だったら、ちょっとこう個別とかで、やはりそれもあのよその施設ではされますので、なんで出来ないのかなっていうのはずっと思ってたんですよ。前出来てたのに出来ないっていうのも、ずっと思ってたし、食事に関しても、いや、先ほど村上さん言われましたように、バラエティにちょっと富むことも考えて行きたいって言われて、すごく楽しみにしています。そういう面では。だから、やはり今、全体としては地域、地域の人としっかりと関係を築くっていうか、繋がって行けるようにやっていこうっていうので、今の、えっと、社会現象として、自治会に参加する人が少なくなってるとか、やめる事が何だっていう風な、そういう希薄な時代になってきてるんですけど、でも私達は地域の方と一緒にいて、こういう施設ですので、やはり色々第三者の目っていうのが入るのがすごく大事なんじゃないかなと思うので、いつもいつも通ってる子が、あれ、今日は元気ないなとか、なんか沈んでるなとか、そういう風な事が、こうちょっと、何か気づいていただく、そういう事があればすごく嬉しいなと思ってて。だからここも、色々あると思うんですけど、民生委員さんなんかちょっと今日来たよとか言って見ていただいたら、あれ?って気づいていただいたら、すごく何か良い形になって行くんじゃないかなと思ってます。すいません。だから、やっぱり育成会っていうのが福祉の先頭に立ってて欲しいなと思うんです。どう言ったらいいかな。いや、これこんな施設やから出来ないじゃなくて、こんな事も出来るんだよっていう事を皆さんに知らしめて行って欲しいっていう、それは私の願いなんですけれども、はい。すいません。好きな事言いましたけど。
白川	貴重なご意見お伺いさせて頂きまして、本当にありがたいと思ってます。育成会も、今日の会議もそうなんですが、コロナの関係がありまして、ちょっと中断して、今、常岡さんもおっしゃったように、もうちょっと、鈴木さんもおっしゃってました。もう親がちょっと年齢的にいきましてですね、ちょっとバイタリティがちょっとスタミナがなくなって、しかし、うちのこのグループホームの今の職員たちは本当に、もうバイタリティも抜群で、今後も皆さんのお力があって、これ今、貴重なご意見いただいてます。こ

	<p>れね、例えば地域との関係も、これ途絶えてたというのが事実ですので、これからちょっと、育成会としては、もうちょっと年齢的にあれなんですが、みんなもう1回思い直してですね、地域の皆さんとの交流にちょっと努めていかないと違うかなと思う。つくづく思います。今さっきおっしゃってましたようにね、やっぱりその地域の皆でこう行って、まがりなりにも小さいなりにもちよと参加させてもらったり、ゴミのボランティア、ボランティア言うか、そこら辺もやっぱり地域の皆さんに、こういう施設であることをもうちょっとこう知っていただきて、またご協力、ご支援をいただきたいと思いますんで、ちょっと育成会の方としても今後もう一度考え直していきたいと思いますので、またご指導の方よろしくお願ひします。</p>
司会	鈴木さん、先ほど言いかけた所は？
鈴木	いや、もうね、本当にボランティアは、もう私も、私の先輩たちはどんどん亡くなったりしてらっしゃる方もね、いらっしゃるし、もう本当にジリ貧の状態なんですけれども、なんか後に続くっていうか、そういう方がいるっていう安心感が欲しいのは確実です。学生ボランティアもすごく魅力的なワードで、これをうまくこう利用したら、職員の方たちの何かこう社会と繋がっていけるっていう風なのがすごく良いアドバイスいただいたなと思ってます。
司会	はい。ありがとうございます。ちょっと私からもですね、ちょっと私、去年、社会人として社会福祉士の一般施設に入って、そこで1年間勉強して社会福祉士の資格を取つて、ここにちょっとお世話になったことなんですかでも、えっとですね、社会福祉士っていうのをその取得される人が激減しているというか、その福祉の過程を4年間学ばれてても社会福祉士を取らずにそのまま別の民間企業に就職されたりとかで、もちろんその介護とかそういう福祉の現場でのそのね、その就労されたいっていう希望の方もどんどん減ってる中で、どんどん既存の方のマンパワーとかが減っていくっていう状況の中もありますよね。そういうところで難しい、色んな課題がありながら、でも地域との関係づくりっていうのも同時に進めて行きたいっていうところもありますので、そういうその複数の課題を抱えながらやっていく難しさはあるんですけども、こういった今日、皆様からご意見いただいたので、そこを参考にしながら、地道にですね、一つずつでも、例えば地域の祭りに参加するところからスタートしてもいいと思いますし、小さいところからちょっと始めてもいいのかなっていう風に、個人的に感じました。
鈴木	すいません。この地域連携推進会議っていうのはグループホームだけなんですか?って言うか私、それこそあの、トライアルウィークなんて言ったらあれ、昼間ですよね。そうするとこここの、ある作業所とか、それの方が対象になるのかなっていう風な。
真部	作業所なんかは来てはりますよ。私、一緒に読み聞かせしてた時にね、緑台中学校のメンバーがトライアルウィークで来てはって、そう、そう。3人ぐらい男の子、若い男の子。んで、女の子とかね。それで私が、私たちが読み聞かせしてる時一緒にお部屋に入

	ってね。で、輪投げ最後ね、みんな1人ずつしてもらって楽しんだ後、せっかくね、あの、トライアルウィークで来てる若いね、あの、学生さんもしてくださいって進めたら、またみんながすごい喜んで応援してね。その人が入れるたびに失敗してもみんなが手叩いてね。だから、いつもだったら利用者さんだけと私たちなんだけど、別に外からね、トライアルで来てくれた方2人もね、すごい喜んで、で、あと1週間いる、あの、1週間そこにずっと行かれるんですね。だから、その間はね、いろんな、あの、利用者さんと関わって、だからね、利用者さんがもう生き生きね、顔がね、若い女の子がいたりして、それも若い男の子もいてるでしょ。そしたらもう目の輝きが違ってね、もうすごいね、ハイテンションなんですよ、行った時ね。もうみんな違うね、私たちメンバーもね、その、感じ方がね、でも真剣にね、聞いてくれて、で、絵本とか、大型絵本持って行って読んだら、あの、もう生き生きと、見られてるっていうのもあるんかな。それで一緒に楽しんで貰ってるっていうのもあるから、なんかすごい連帯感をね、感じましたね。やっぱり日常と違うね、その1週間だけは、なんかもうハイテンションですって、職員さんもおっしゃってましたけどね。だから、そういう機会がちょっとね、できればね。向こうは作業所なんで働いてはる、あの、午後に行くんですけどね。でも待ってくださいって、私たちもね、私たちのグループも、あの、高齢化してだんだんね、次あとついてくれる読み聞かせのなり手が無いんですけど、どこまでいけるかって、その作業所行ったり、後、子供たちの北小学校行ったり、いろんな所へ、自分から行ってボランティアしてるんですけどね。だから、こういう所でも来てくださいっていうお呼びがかかれば、そういう、ボランティアセンターが社協にありますので、そこへ申し込まれたらね、できるはずなんんですけどね。うん。いろんなところでね、こう地域と繋がってもらったり。
司会	そうですね。
常岡	あの、カレーイベントでこういうのをしてくださるグループがあるんですか？
渡邊	いや、それを作ったんです。
常岡	あ、作った？
渡邊	あの、グループとかではないです。企業さんとのコラボでやってます。はい。
常岡	じゃあ、それお願いしたら？
渡邊	お願い、まあ、お願いされるためにはやっぱりその条件面っていうか、厨房があってとか、その辺は精査せなあかん。
常岡	来てくれる？

渡邊	もちろん。もっともっと地域でやっていくことなんで、いろんな地域に行かしてもらえる形でやろうかっていうところね。
鈴木	家庭にシェフを呼んで作って貰ったり、そういうパターンもありますよね。あんな感じかしら。
常岡	なんかコーヒー入れてくれるとか。
渡邊	まあ、いろいろありますね。
松澤	いわゆるアウトリーチっていう感じですね。
鈴木	人と人の繋がりを作ろうっていう、なんか社会的に、なんかそういう、あの、薄くなってる、まあ、パソコンや、あの、ゲームとかその辺でっていうのがあるから、こう社会、あの、普通の子供たちも社会性を築いていくってなんかね、そういう風なことをこれから課題なんじゃないかなっていう風な思いますね。
渡邊	白川理事長さんもおっしゃってたけど、コロナ前とコロナ後ね、だいぶ状況が変わってね。
一同	そうですね。
渡邊	今それを取り戻している段階なんかとは思いますけどね。なかなか人と人が関わるのがなんか希薄になってるのはもう間違いないですよね。
常岡	今度なんかね、9月か11月にありますよね。ええと、多文化共生？
真部	参加されてもいいと思うんですけどね。
渡邊	なんか、売るもんあってね。参加してもらって、是非利用者さん連れてきて楽しんで貰うとかね。うん。
真部	今ね、外国の方多いのでね、多文化共生っていうことで、あの、いろんな所と一緒にお声を掛けて、そのね、お互いを知り合うという、ことをね、今社協の方も推進されてて、私はもうその、あるからということで宣伝してくださいとかいうね。
渡邊	出店だけが参加ではないってね。体感してもらえることが1番大事なんでしょう。なんか皆さん美味しそうに食べてはりましたよ。
常岡	舞台もあるみたいだから。

渡邊	ダンスとかも、歌とかもね。
常岡	あの、手話、手話ダン？あれで参加され。うちもギターで参加しようかなって。いろいろあるので、もう少し、社協さん情報とかも取り入れてとか。ここだったら。
渡邊	まあ、欲張るとね、本当あれもこれもってなるんで、まあ、今年度どこまでできるかっていうところですね。
鈴木	見学に行くだけでも、この前ね、あの、スポーツ大会もね、参加しましたよね。初めてですね。
白川	だから、続けていく事が大事なんで。
鈴木	こういうこと、あ、これだったら私たちもできるっていうのが、そういうことがあるんじゃないかなっていう風に思います。
白川	もう1回頑張って頂きたい。
鈴木	芽がでてきてるっていうのを、感じさせてもらえるだけでも本当に、なんか、期待をもてる。
白川	だから、ゆうあいスポーツもそうですし、今日の夏祭りもそうですし、もう1回復活していきたい。地域、地域の皆さんとの関わり合いも同時にですね、やってきて、本当に貴重な意見、ありがたいと思ってます。
常岡	これ、でも、なんかゴミ拾い行くとか言ってましたよね。
松澤	行ってます。
鈴木	ああ。いや。あの、歩行訓練っていうかね、歩く、ただ歩くだけじゃなくて、袋持つてゴミ拾いしての歩行っていうなんか、それでもね、なんか、あの、作業の一環とかね、そういうのになるんじゃないかなしらね。
司会	ちょっと先ほど鈴木さんからご質問あったんですけども、この地域連携推進会議自体がこういうグループホームと、あの、障害者の入所施設ですね。そこがやはりそのサービスとして外部の目が入りづらいっていう観点がどうもあるらしくって、その制度的にそういう外部の目を入れましょうっていうところからこういう制度が義務化されたという経緯があるようですね。

鈴木	ただ、ここは、昼間作業所が開所されてる、その流れの中で、あ、これ何?ってね、建物見て、それでこれグループホームだよっていう風な形でしていただくっていう風なこともあるから、昼間の、そっちの方がやりやすいかなっていう風に感じますね。
渡邊	まあ、われわれもやっぱり受け入れになって仕事をする部分から始めますから、ボランティアさんね、掃除の仕事してもらうとか。で、手が空いたら生活介護をここは拠点という形で考えてやってるんで、いろんな作業があると思います。いろんな障害理解とか、福祉サービスの理解に繋がれる場所やと思ってますんで、協力いただきたいと思っています。
鈴木	人数が増えるし、作業の人数ね。
渡邊	本当先ほどおっしゃってたように利用者さんがめっちゃやる気なんです。あの、若い方がね。
真部	ま、よそから違う人が入るだけでいい感じ。私たちのおばさん、もう年寄りですけどね。でも私が行くだけでもね、あの、職員さんから言わしたら、もう目の色が違うし、今日は来る日やねって朝からね、楽しみにしていますって。んで、1人来なかつただけでね、の人どうしたって名前もみんな覚えてはってね。Bさんもね、Aさんもね。いつもあの、最後にはぱっとタッチして、Aさんなんかね、わざわざ来て握手ってね、して帰ってくださるんですよ。名前ももうだいぶ覚えてきてね、もう10年からになるんですね。2006年ぐらいから、社協の元々地域、私は他の所行ってたんですが、その所長さんが、たまたまそこの小戸作業所に異動になって、あの、真部さん、その、こっちは無理なんかって言うはるから、いや、向こうからご依頼もらったらね、私たち考えますよって、でも私たちあの、小学校とかね、あの、健常者の所行ってるから、どうしたいかなと思ってねとにかくやってみようって言って始めて、最初はもう大人の方やしね、どんな本持つて行ったらええやろかとか、すごいこう慣れるまでね。だけど、もう普通に、もう今やったら、聞く人は聞いてくれてるし、分かる人はもう楽しんで、本を次2冊持つて行ったら1冊を読もうとして、どっちか選ぼうと思ってたもう1冊あるから読んで言うて言う方もいてね、持ってきてるから読もう言うて読んだり、もう大好き人もいるんですよ。でも反応がある、でも職員さんから言わしたら、声は出さないけど分かってはると思います言うて下さるから、もうそれとね、職員さんがもうちょっとでも安心ね、その聞いてる間は職員さんリラックスしてもらってね、職員さんがリラックスされるだけでええじゃないって私がやってる価値がね。それでちょっと休んでもうたらえんじやないってね。んで、後そのあと何かおやつの時間に入るみたいで、何かね、コロナがあってね、前は2回同じことやってたんだけど、コロナでこう密着されたらってね、3回にわけてね、同じことを言うかグループ分けされて向こうが同じことをね、だから利用者さんにとっては時間が減っちゃってね、20分30分ぐらい2回やってたの20分を3回やって下さい言われてそういう風に変えたり色々ね。

鈴木	で、まあ、私、真部さんと私こういうことじゃなくて、本を読むっていうそういうグループの仲間として存じ上げてたんだ、いや、私たちの活動、その活動自体がちょっとジリ貧なんですよ。
真部	もうみんなね。
鈴木	で、老人施設か、これはいい話聞いたと。そうそう、だから施設、この、ここは関係ないけど、
真部	うん、施設とかね。
鈴木	ね、いいね。たくさん言われて。うん。いいヒント頂いてます。
真部	だから2人での連絡取り合ってね、もう行って、社協関係なくね、社協から依頼有った分はそれなりにちゃんと行って、別に個人的にね、あの近くのグループホームさん行ったり、あの、お年寄りのどこ行ったりはしてるんですけどね。
司会	ありがとうございます。すみません、ちょっと時間が迫ってまいりました。申し訳ございません。活発なご議論いただきましてありがとうございました。で、一旦会議部分の方は終了いたしまして、実際のグループホームの方の現場に伺いたいと思います。まずは日中支援を今やっております向かいの建物の2階、こちらを見学しまして、実際にご利用様が過ごされてる様子を御覧いただければと思っております。で、その後もう1つのたきやま3という所に移動しまして、こちらもちょっと利用者さんはいらっしゃらないですけれども、設備は若干異なってますので、そういったところもご覧いただければと思いますのでお願いいいたします。で、ちょっと貴重品だけお持ちいただいて、お荷物はこのまま結構ですのでお願いいいたします。
	(ホームたきやま 見学)
司会	皆さん見学の方お疲れ様でした。ありがとうございました。実際に滝山の方ではご利用様が過ごされる様子などをご覧いただいたんですけども、何か感想など通じて皆さん共有されたいことがありましたらお願いします。大丈夫ですかね。ちょっと利用者の皆さんもお客様来てちょっと緊張してたかもしれないんですけども。個性あるお部屋とかも見ていただけてちょっとこちらも。
鈴木	子供さんたちに影響がなければと。
村上	ご心配なく。

司会	ありがとうございます。ではですね、この滝山のこの地区での会議の方は一旦ここで終了となりますので、一旦まとめの方に入りたいと思います。本会議は先ほど申し上げましたが、今年度から開催が義務化されたものではあるんですけども、このような会議を通して私たちの事を知っていただくことができたことと、あと地域の方々からご意見をいただくことができる大変貴重な機会となりました。実は本会議は来年以降も毎年開催が必要となりますので、もし声掛けさせていただける事がありましたら、どうぞこれに懲りずまたご参加いただければ幸いに存じます。最後に閉会の挨拶としまして、当法人の事業統括管理者の松澤よりご挨拶をさせていただきます。
松澤	本日はどうもお疲れ様でした。あと久代ハウスの方のご見学もお願いしたいと思います。本日第1回ということで、このようなメンバーでご出席いただき本当に感謝しております。前川先生、渡邊さん含めて前川さんはもうこの福祉業界半世紀以上の業界人でいらっしゃいますし、私のななくさでの先輩でもございます。私も半世紀弱この業界におらさせていただいています。今回の話ずっと聞かせていただいて、本当に時代って言いますか。一言で言うと本当に今日の話は、我々昭和の世代の話やなという風に思います。今は、この業界に希望する若い職員もやはり減ってきてますし、人口自体も減ってきてます。それと地域の皆様からのご理解と同時に、我々事業所自身もこの物価高ということで、やはり事業経営という方でももう大変苦しい状況にもなってます。本当に一時期はもう米が無くてっていうこともありましたし。前川さんには当初ななくさで初めてご指導いただいて、半世紀以上の前の話になりますけれども、今日、ちょうどちん飾らせていたいただいてます。このちょうどちんもななくさの方で借りてきましたし、テント、ガスコンロ、色々借りに行った際なんですが、やはりああいった大きな事業団でもここ10年、もうこれ使ってないと。私たちが前川さんともななくさで夏祭りしてた時は利用者さんだけで600人いらっしゃいました。あの、白寿荘、いわゆる特養で150人、ななくさ育成園っていう知的の成人施設は140人、救護施設は100人、学園と合わせて、もう利用者さんだけで590人っていう大所帯、それに地域の人の祭りっていうことで、一応500人を想定して、我々焼きそば組だけでも店舗4つ出して。で、1店舗あたりは250人分ずつ担当して、焼きそばだけで4店舗という感じで、半世紀前、我々が若い頃はそういう風にやって、地域の方にも本当に焼きそば、金魚すくい、利用者さんも、もう600人の利用者さん、ちっちゃい子供からお年寄りの利用者さんまで、それと地域の方、交流してました。でもそこで第1次ショックじゃないですけども、あの頃福知山線の脱線事故が夏前にあって、そういうお祭りごとを自粛しようという流れが1つ来て、そこでお祭り関係は地域との交流も1つ途絶えるきっかけと言いますか、事件がありました。それで次はやはりコロナということで、今お言葉にもいただきましたように、ちょうど復活の時代、その頃をまた復活させようという時代になってきてはおるんですけども、何せ福祉業界の人材の人気不足、全体の子どもの少子化の人口不足ということで、我々昭和世代はやる気はあるんですけども、前川さん筆頭に私ももう体がついていかんようになってまして、気持ちだけはどんどんあって、その我々の昔の気持ちを今の若い世代に繋いでいきたいなというそれだけで今現在生きてるとい

	う状況です。ですから地域のみなさんとの連携っていうのは本当に昔の施設も結構やつてたんですよね。でも色々な状況が重なってきて、やはり疎遠になって来るし、インターネットの時代なって来る。で、回覧板で回したりとかいうところが、今はもうLINEで町内の文は回てくるということで、顔を合わせる機会がどんどん少なくなってきたという世代でも時代でもありますので、この時代に抗いながら、でも昔の良さを何とかやっていきたいなと思ってます。今回法人でやっとホームページを立ち上げる形になってきます。その中でトレードマークと言いますか、今回手をつなぐ育成会を作りました。
村上	ゆるキャラ
松澤	ということで、これ村上のほうがデザインして作りました。川西を象徴しておりますので、皆さんこの機会に覚えて帰ってください。名前はツナゲンです。このキャラクターはツナゲンで、川西の名物であるいちじく。
村上	いちじく。葉っぱ。桃。ピンク。ピンク。
松澤	川西を象徴する
村上	もう1つ。市花？市の花。りんどう。
村上	紫。はい。この前髪。
松澤	前髪が紫というイメージキャラクターになっております。地域との交流でこのツナゲン、キン太君と負けず劣らず、かぶり物も作って行こうかなということも考えておりますので、トラッキーとラッキーと同じようにツナゲンとキン太君の2枚キャラクターで、今後は育成会がどんどん活気あるようにしていきたいと思いますので、またそういった時には地域の方にも出向いて行けたらなーという風な甘い夢を持っております。もう暑さに負けそうですが、本当に今日は貴重な時間、貴重なご意見もいただきまして、本当にありがとうございました。小さな一步ずつですけれども、これからも職員がどんどんやる気をだしていく様に頑張って行きたいと思いまでの、今後も皆さんのご理解とご協力を願いしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。
一同	ありがとうございました。
司会	はい、それでは本日の地域連携推進会議は閉会とさせていただきます。お昼をまたぐ形になるんですけども、これより久代ハウスの方の見学に向かいます。事前にご承諾いただいたおりました前川様と、真部様にはちょっと引き続きですね、ご足労おかけしますが、よろしくお願ひいたします。改めて皆様、本日は誠にありがとうございました。

一同	どうもありがとうございました。
司会	お忘れ物ないようにだけお気を付けてください。
以上	

### 地域生活支援かわにしホームたきやまの見学について

「日中支援サービス型」である地域生活支援かわにしホームたきやまでは、会議当日にちょうど日中をお過ごしになっているご利用者様の様子を見学いただくことができた。ご利用者の皆さんは昼食前ということもあり、リビングに集まって、それぞれパズルをしたり、本を読んだり、テレビを観たりなどリラックスしてお過ごしになっていた。もちろん居室で静かにお過ごしの方もいらっしゃった。委員のみなさまには、共有部分であるリビングやお風呂、トイレ等をご覧いただいた後、了承をいただいたご利用者様の居室も見学された。プライベートルームである居室はご利用者様の個性があらわれており、お部屋によって雰囲気が異なることを委員の皆さんに感じていただくことができた。また、緊急時などに受け入れ可能な短期入所（ショートステイ）専用のお部屋もご覧いただいた。見学を通じて、わたしたちが大事にしているグループホームはご利用者様にとっての「お家」であるという考えを体感いただくことができた。日中支援中の住居を見学いただいた後、次にもうひとつ別の住居も見学いただいた。おおむね個室と共有スペースから成るところはさきほどの住居と変わりはないが、こちらはエレベータを備えており、階段の上り下りに不自由されるご利用者様にとっても安心できることを確認いただくことができた。

### 久代ハウスの見学について

地域生活支援かわにしての地域連携推進会議の閉会後、委員の真部氏・前川氏・常岡氏に久代ハウスへお越し頂き、施設のご案内をさせて頂いた。

綺麗な建物ですねとのご感想をいただきつつ、まずは1階女性フロアをご案内。1階のリビングには、女性ご利用者が作成した折り紙や工作品が飾られており、華やかながらも生活感のある雰囲気をお感じ頂けたかと思われる。

2階の男性フロアは、1階とほぼ同じ作りとなっており、リビング・ダイニングのほか、広さが自慢の浴室、趣味に溢れたプライベート個室などをご覧いただいた。

ご利用者は不在の時間であった為、実際の生活のご様子をご覧いただくことはできなかったが、平日の日中は皆さん作業所へ就労されていること、そして各々の休日の過ごし方についてお話をさせて頂いた。また、ご家庭との関係や、これから望まれるであろう「介護サービス包括型」から「日中支援サービス型」への移行への課題について、意見共有をさせて頂いた。

以上